お四国ゴルフかわら版

2003.7.15

第11号

発行
四国ゴルフ連盟
〒790-0921
愛媛県松山市福音寺55-1
電話 089-990-3260
FAX 089-990-3261

平成十五年度の四国女子アマ、四国アマ選手権競技は五、六月に開かれ、両大会ともプレーオフにもつれ込む熱戦が展開された。女子アマは大会史上初の母娘によるプレーオフでベテラン二宮薫選手（今治C）が2年ぶり六度目の優勝。一方、四国アマは新鋭と古豪の対決となり、ディフェンディングチャンピオンの山本隆允選手（SGU、東北福祉大2年）が連覇を果たした。

女子アマ

〝母娘決戦〟ママに軍配

二宮薫（今治）2年ぶり6度目

第23回四国女子アマ選手権（5月14・15日、J・クラシックゴルフ倶楽部、5882ヤード、パー72、78人参加）

二日とも雨の悪コンディションだったが、二宮薫、歌奈子（今治C、明徳義塾高3年）両選手の緊迫した〝母娘決戦〟で大会は大いに盛り上がった。

最終日、薫選手が2打差の2位タイで前日首位の娘・歌奈子選手を追う形となった。後半、薫選手が連続バーディーを決めて逆転、逃げ切るかに見えたが、最終ホールでボギーをたたき昨年に続くプレーオフ決戦に。1ホール目で薫選手がバーディーを奪い、異例の母娘決戦に決着をつけた。

3位には中学3年の坂本優里選手（エリエール松山G）4位タイに坂東由美子（四国C、13回大会優勝）が入るなど若手、ベテランの活躍が注目された。最終成績は次のとおり。（10位まで）

①二宮薫（今治C）148②二宮歌奈子（同）148③坂本優里（エリエール松山G）150④伊井アケ美（北条C）坂東由美子（四国C）高橋布由乃（愛媛G）152⑤横山倫子（高松グランドC）153＝以上日本女子アマ出場選手＝⑧前田陽子（詫間C）154⑨原田真紀（御所C）155⑩萩野百合（黒潮C）157

第45回日本女子アマ選手権（6月24～28日、桑名CC）

四国からはシードを含む8選手が出場、2選手が決勝に進出。高橋布由乃選手（愛媛G）は初のベスト8、横山倫子選手（高松グランドC）がベスト16に。

二宮選手の話　世代交代が進んでいるが、私自身はもう少し頑張ってみようと思っている。娘（歌奈子）と同じ組で回ったのは練習以外では初めて。お互いやりづらかったけど、娘といえども勝つつもりでファイトを燃やした。

四国アマもプレーオフ

新鋭山本（SGU）が連覇

第23回四国アマ選手権（6月3～5日、愛媛ゴルフ倶楽部、7060ヤード、パー72、199人参加、予選カットライン154S）

大会中は好天に恵まれ、日本アマ出場切符をめぐるデッドヒートが展開されたが、終始手堅いプレーで通算イーブンパーにまとめた山本隆允（SGU）﨑山俊紀（今治C）の両選手によるプレーオフに持ち込まれた。

過去2位が二度の﨑山選手は初タイトルをめざして昨年の優勝者山本選手に猛チャージ。2ホール目のバーディーチャンスを逃したあと、3ホール目で逆に山本選手にバーディーを決められ涙をのんだ。最終成績は次のとおり。（7位タイまで）

①山本隆允（SGU）288②﨑山俊紀（今治C）288③二宮英二（同）289④大宮正幸（詫間C）290⑤尾崎竜二（阿南C）高橋佳伸（徳島フォレストG）293⑤小川貴大（松山シーサイドC）294⑥上地章久（錦山C）296⑦赤木和彦（新阿波C）谷本伊知郎（屋島C）萩野俵多（黒潮C）渡辺將憲（道後G）山中陽生（土佐C）297＝以上日本アマ出場選手＝

山本選手の話　日本ナショナルチームの一員として四国から選ばれたので、今大会はぜひタイトルが欲しかった。勝ててうれしい。

第88回日本アマ選手権（7月8日～12日、秋田椿台CC）

13選手が出場、大宮正幸（詫間C）と渡辺將憲（道後G）が決勝に進出。いずれもベスト32位に。

日本アマなど大幅増

JGA競技への出場枠

日本ゴルフ協会（JGA）主催競技への四連の出場選手枠が、今年度から大幅に拡げられた。

JGAが、四連の要望にこたえ、出場枠の算出法を改めた結果で、日本アマ選手権が一挙13人になるなど全体に出場選手が増えた。新しい出場枠は次のとおり。（カッコ内は従来数と変更枠）

日本アマ（4人―13人）女子アマ（4―7）女子ミッドアマ（8―10）ミッドシニア・グランドシニア（各1―各3）。なお、日本ミッド、日本シニア競技は従来どおり8人と3人。

今年も混戦模様

クラブ対抗 8月20日

四国ゴルフ連盟の平成十五年度主催競技は中盤に入り、八月の四国クラブ対抗決勝、九月の四国レディースと続く。

今年で二十三回目を迎えるクラブ対抗決勝は八月二十日、高知県日高村のグリーンフィールGCで開かれる。

すでに各県予選も終え代表の17倶楽部の顔ぶれが出そろったが、今年の夏も一段と暑い接戦が予想される。会場のグリーンフィールGCは平成8年の開場。フェアウエーは広く距離もたっぷり。特に大きく波うつグリーン攻略が勝負のポイントになりそう。

23日から受付開始

9月の四国レディース

昨年から始まったアンダーハンディ競技の四国レディースは九月二十五日、新居浜CCで開かれる。第一回大会には二十代から七十代まで百五十余人が参加、厳しい残暑の中で緊張感あるプレーを楽しみ好評だった。

今年は他の競技会との重複を避け、暑さの和らぐ九月下旬にずらした。組単位や一人だけの参加も可能で所属倶楽部を通じて申し込めばよい。受け付けは七月二十三日からで、定員に達すれば締め切る。四連では多くの参加を期待している。

グリーンフィールGCの8番。中央に大きなバンカー。攻め方に注意

池ポチャがこわい新居浜GCの最終18番

元気にプレー楽しむ

グランドシニア会

高齢化社会の進展とともに四国でも七、八十歳台のゴルファーが増え元気にプレーする姿が目立っている。

背景にはプレー費の低廉化に加え、この四月からは七十歳以上のゴルフ場利用税が非課税になったことなど年金暮らしのお年寄のゴルフ環境改善があげられよう。

四連は高齢ゴルファーの健康増進と親睦を目的に昭和五十七年に設立された四国グランドシニア会の事務窓口を担当、毎年春秋二回の大会開催を支援している。

同会への参加資格は男が数え年七十歳以上、女子六十歳以上。現在の会員数百八十五人で、大会は各県持ち回り。今年も五月末に四県の会員が集い、春の大会が盛大に開かれた。秋は十月三十日に新居浜CCで開催の予定。

徳島で小中学生大会

夏休みに高知と愛媛も

ジュニアゴルファーの育成、底辺拡大をめざし四国各県協会・連盟が開催する「小中学生ゴルフ大会」は、徳島県協会を皮切りにスタートした。今年度から初めて取り組む事業で、開催時期や運営の仕方は各県協会・連盟の考え方に任されている。

皮切りの徳島小中学生ゴルフ大会は四月一日、徳島CC月の宮コースで開かれ、小中各十六人の計三十二人が参加、雨中の熱戦を展開した。

続いて高知大会は八月三日に黒潮CCで、愛媛も同月二十一日に松山シーサイドCCで開催する。香川は未定。いずれも夏休みを利用してのもので、四連では各県の成果を踏まえて四国大会開催につなげたい考え。

コースレートの査定

加盟倶楽部で相次ぐ

四国ゴルフ連盟加盟倶楽部のコースレート査定が、このところ相次いでいる。

作業は査定申請を受けた四連のハンディキャップ委員会が、実際にプレーして実効距離や各ホールの難易度を統一規準に照らして評価、コースレートをはじき出す。今年から男女別々のハンディキャップ制度が始動したのを受け、女子専用のコースレートも査定、認定書を発行している。

五月の高松CCのあと六、七月は松山GCなど四倶楽部が完了。続いて昭和四、五十年代オープンの倶楽部の査定が予定されている。

歳月の経過に伴い改造などで開場当時と大きく変化しているコースは少なくない。コースレートを基にゴルファーのハンディキャップが算定されるわけだから当然、コースレートはコースの現状を反映したものでなければならない。

JGAが三年前、コースレートの認定期間を「十五年」とし、査定規則などを改訂したのも、こうした実情に対応してのこと。

全国に統一された新しいハンディキャップシステムの普及をめざすJGAは、今後も厳正なコースレート査定を積極的に推し進める考え。

おらが倶楽部でござる

其の十二　今治カントリー倶楽部

クラブハウスを望む最終ホール（パー４）。競技会では多くのドラマが展開される

「こんな難しいコースには二度と来たくない」。ある日、初めて来られた遠来のお客様から聞こえたつぶやきでした。冗談とも本音ともとれる言葉に戸惑いました。

当倶楽部は昭和四十七年十月、今治市の南西十五キロ、緑豊かなここ朝倉村にオープンしました。村内には五、六世紀の古墳が散在し、昔から文化の開けた地域だったことをうかがわせてくれます。

コースから海道遠望

コースからは霊峰石鎚、四年前開通した「しまなみ海道」来島大橋の白い主塔や島々が遠望できます。昨年十月、当倶楽部は満三十歳を迎えましたが、その間に大きな危機を二度も体験しました。

最初が昭和五十一年九月の台風災害でした。開場から四年目、地盤の軟弱な造成地が崩れ、フェアウェーや周辺の田畑に流出するなどコースの約三割に被害が及びました。

当時の社長、幹部らの苦労は「計り知れないものだった」とは元支配人の回想。それでも「二ヵ月足らずの休場でほぼ復旧し、その後はゴルフブームに乗って順調に基盤を築いてくれました」。

何度も来たいコースに　危機生かし変貌めざす

二度目のピンチは「平成十四年のグリーン危機」でした。春先の更新作業後も芝の生育に異変が見られ、特に日照や排水の悪いグリーンは最悪の状態。張り替えたグリーンをみて「ひど過ぎる」とクラブ役員やメンバーさんが嘆きました。「この不況時、このままでは今カンの存続すら危うい」との声まで聞かれました。

そこで今年一月から四月の間、休場してグリーンの大改造に踏み切ったのです。さらにいわゆる難所と思われる数箇所も思い切って改修、危機を生かして「トリッキー」から「気軽に楽しめる」コースに生まれ変わったのです。

四月下旬、リニューアルオープンの時、文頭に書いたあの日のお客様のつぶやきが頭をよぎりました。

毎年秋に当倶楽部で開く「瀬戸内海アマゴルフ選手権」は技術力向上を目的に愛媛県アマゴルフ研修会との共催で平成八年に始めた大会。今年で八回目を迎え、今では若手の登竜門に。しまなみ海道開通後は、文字通り中四国のトップアマ交流の掛け橋役を果たしています。

今治カントリー倶楽部
〒799-1607
愛媛県越智郡朝倉村朝倉上乙1103-11
TEL：0898-56-2222

持株会員制で団結心

今年も四国クラブ対抗決勝の夏が近づきました。予選を勝ち抜いた四県代表倶楽部が「四国一」をめざし激突するこの大会で、当チームは七回の最多Vの記録を持っています。強さの秘密は、団体競技に不可欠のチームワーク。その団結力を育んでいるのが、当倶楽部の特徴でもある株主会員制で、倶楽部運営についても会員から実に多くの建設的意見が出されます。

倶楽部役員室に武田愛三郎前朝倉村村長の書が掲げてあります。「楽在人和」（楽は人の和にあり）

クラブ運営の根源はコミュニケーション、即ち「人の和が大切」という教訓であり、私どもはこれを座右の銘とし仕事に励んでいます。（月原佑治・今治カントリー倶楽部支配人）

お四国随想　手島晧一

徳島県、阿波の国の遍路寺、つまり発心の道場の寺は二十三カ所あるが、その中で永録十二年の長曽我部元親の兵火に遭ったものがなんと十二寺あるのには驚いた。

元親は阿波を攻めてそこから京都に上ろうとしたが、結局は信長に反対されて追い返されている。その戦いで二十三寺中十二寺が焼き払われ、その他に愛媛県、香川県で難に遭った寺があり、高知県でも一ヵ所ある。これほど寺を焼いた男はいないだろう。

なぜ寺をと思うだろうが、その当時は寺と言えば大変な金銭財宝の保有者（今でも京都あたりではそうだが）で、まず略奪をうけるのは庄屋や寺であった。それと地元の敗残勢力が寺に立てこもって抵抗するために焼き払うのである。長曽我部の兵火を逃れても他の兵火でたくさんの寺が焼かれ、その他にも雷や失火で焼失している。

寺は殆どが山中か山上の険阻な場所で水には恵まれないうえ、焼け易い材料で造られているので火には一番弱い。

なんで不便な場所に寺を建てたのか、その理由はわからないが、一番に考えられることはその場所が修行に便利だったり、開祖がその地で霊感を感じたと言うようなことらしい。つまりは信仰から出ているので、その他の地の利は考えられない。

しかし、行ってみると、どこもいい場所である。建造には大変な資金と労力が要るが、すべてが信仰で賄われている。石段の巨石、柱の巨木をみても大昔にどうしてこれらの物を運んだのだろうかと思うが、信仰でもないとても出来るものでない。

ところでいずれの宗教でも、発祥地は荒廃した場所だ。そうしてみると、ゴルフもひとつの信仰のようだ。

英国では海岸の荒地を見るとゴルフ場を考え、アメリカでは平地や砂漠、溶岩の中を見るとゴルフ場を造ろうとする。日本では国土が狭い理由もあるだろうが、安い土地があればゴルフ場を造ろうと思う。実際、こんな場所にと言うような所に造っている。

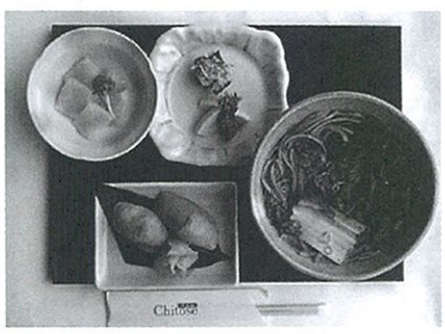
そうしてみると、ゴルフ場造りも信仰と同じだとも言える。ゴルフ教という信仰で造ったゴルフ場も寺同様、水がなくて困っているところが沢山ある。しかも日本のゴルフ教には金銭信仰と欲も先行している。

昔、争いで寺や仏像を焼き払っても何の仏罰も受けないのではどうしようもない。元親の一族は四国から九州まで荒らし、最後には豊臣秀吉に滅ぼされている。

（四国ゴルフ連盟常務理事）

ま・四国　味のクラブ対抗

郷土定食（レオマ高原ＧＣ）



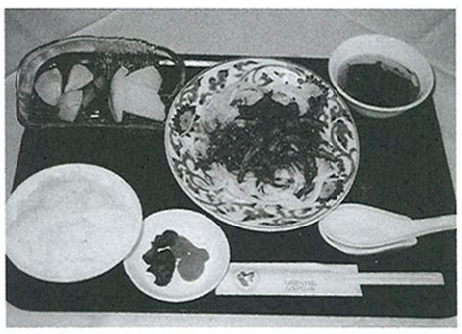
太目の名物祖谷そば

メインは平家落人伝説やかずら橋で知られる祖谷地方のそば。最近は生産量も少なくなったが、昔からこの地方はソバの産地で、祖谷川の湧き水を使い丹念に練り込められたそば粉一〇〇％の手作り麺。

ちょっと太目、プツプツ切れるのが特徴。薄味のかつおだしが生そばの風味を引き立ててくれる。レストランの中岡克利店長（祖谷出身）は「信州や出雲に劣らぬ全国区の味」と胸を張る。

地元でとれる季節の山菜、刺身こんにゃく、いなりずしが付いて一人前千三百円。

中華ランチ（グリーンフィールＧＣ）



珍味ダチョウの砂肝

この四月から登場した新メニューで、主菜はダチョウの砂肝の辛味噌炒め。中華料理の食材にダチョウの肉がよく使われるが、砂肝は珍しい。コブシ大（四、五百グラム）のものを細切りにし醤油と酒で下味、かたくり粉をまぶして油通しする。油を引いた鍋に中華味噌と唐辛子を入れ、砂肝を加えて炒める。

砂肝のシコシコした食感とピリ辛味が絶妙。ビールにもびったり。「強火で手早くがコツ」とは海地俊輔中華チーフ。新鮮なイカ、ホタテの冷菜、スープ、お新香が付いて一人前千三百円。

編集を終えて

日本人の平均寿命が、また伸びました。厚生労働省の発表によると女性が初めて85歳を越え、男性も78.32歳と、長寿化が着実に進んでいるようです▲ゴルフ場でも高齢者の元気なプレーが目立っています。それだけに七十歳以上が障害者や十八歳未満らとともに今春からゴルフ場利用税の非課税対象になったのは有難いことです。ただ、徴収窓口となる各ゴルフ場にかなりの事務負担が増えそうで心配でした。各県協会・連盟、支配人会が結束し県税担当者と話し合った結果、県によってはかなり事務の簡素化が可能になったようです▲深刻な経営不況でどのゴルフ場も人減らしをしました。この苦しい事情を行政当局もご理解下されば幸いであります。（T）